

平成26年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

1. 実施概要

平成26年度は、各学校からの実施要望のうち、防災教育の地域への波及効果等を考慮して実施校を選定し、県立高等学校7校（定時制含む）、私立高等学校2校及び特別支援学校1校の計10校で実施しました。

内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。

実施校

No.	実施日時	実施校・参加者	演題・講師
1	7月11日(金) 9時～	県立旭農業高等学校 423名(全校生徒)	「東日本大震災体験談」 いいおか津波語り継ぐ会 会長 仲條富夫 氏
2	7月18日(金) 11時25分～	東葉高等学校 707名(全校生徒・地域 住民等)	「高校生にできる防災の取り組み －災害時の役割を考える－」 地震防災アドバイザー 川端信正 氏
3	9月1日(月) 10時～	県立四街道北高等学校 682名(全校生徒)	「東日本大震災体験談」 いいおか津波語り継ぐ会 会長 仲條富夫 氏
4	9月1日(月) 10時～	県立一宮商業高等学校 482名(全校生徒・地域 住民)	「被災地での経験と防災・減災に向けた取り組み ～高校生ができる防災への取り組み・心得～」 東京災害ボランティアネットワーク 事務局長 福田信章 氏
5	9月2日(火) 9時50分～	県立関宿高等学校 360名(全校生徒・地域 住民)	「高校生にできる防災の取り組み －災害時の役割を考える－」 地震防災アドバイザー 川端信正 氏



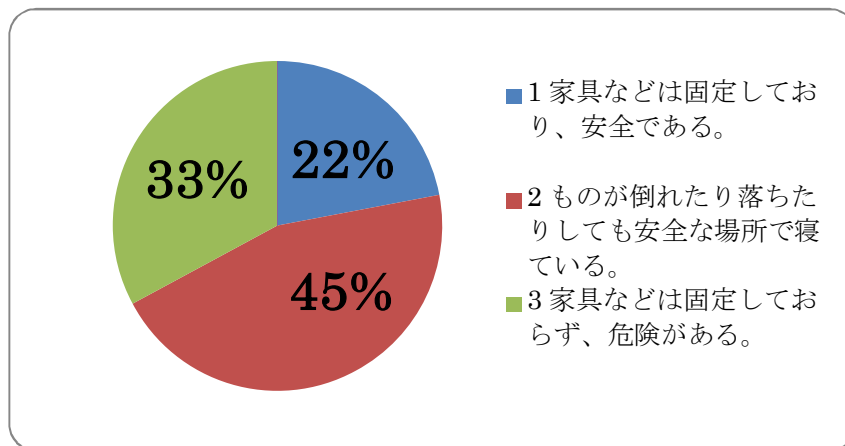
No.	実施日時	実施校・参加者	演題・講師
6	9月5日(金) 11時55分～	東海大学附属望洋高等学校 976名(全校生徒)	「高校生ができる防災への取り組み・心得」 公益財団法人市民防災研究所 特別研究員 細川顕司 氏
7	10月14日(火) 15時20分～	県立船橋東高等学校 1,037名(全校生徒)	「被災地での経験と防災・減災に向けた取り組み ～高校生ができる防災への取り組み・心得～」 東京災害ボランティアネットワーク 事務局長 福田信章 氏
8	11月12日(水) 18時～	県立東金高等学校 (定時制) 78名(全校生徒・地域住民)	「東日本大震災の体験からーそして今」 宮城県七ヶ浜町社会福祉協議会 引地淑子 氏 ※ 煙体験を実施
9	12月1日(月) 14時25分～	県立姉崎高等学校 501名(全校生徒)	「高校生ができる防災への取り組み・心得」 公益財団法人市民防災研究所 特別研究員 細川顕司 氏
10	12月10日(水) 10時15分～	県立東金特別支援学校 148名(高等部生徒・地域住民等)	「自分たちでできる防災 ～あなたにできること～」 減災・福祉パートナーズ 代表 蓮本浩介 氏 ※ 地震体験を実施



2. アンケート結果

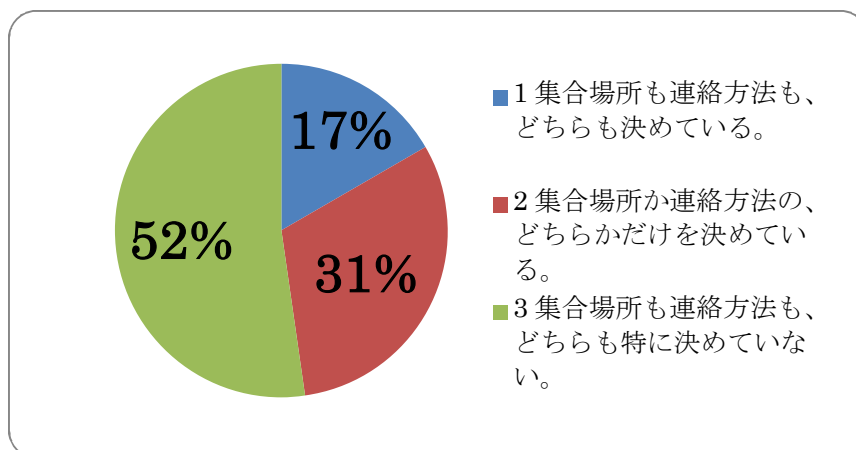
「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、啓発目的を兼ねてアンケートを実施した（特別支援学校を除く）。設問は、日常からの防災対策及び東日本大震災後の災害に対する意識を問うものである。

- (1) あなたの家庭では、寝ているときに地震が起こった場合、体の上にもものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



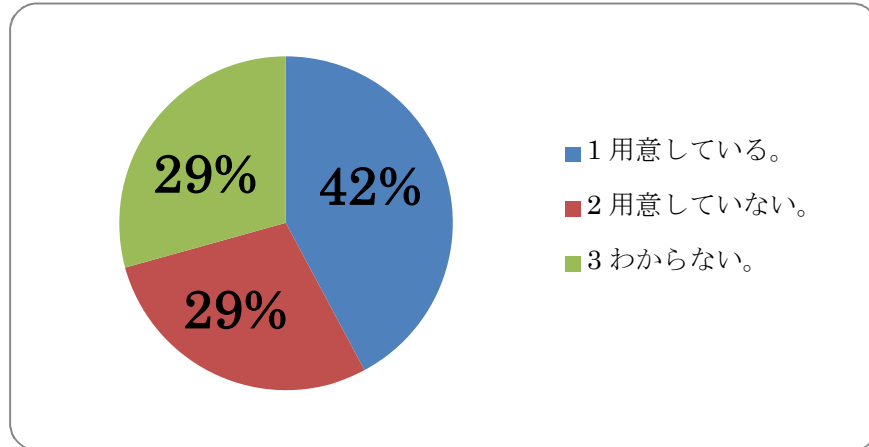
- (2) 東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅が困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながらなくなりました。

家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

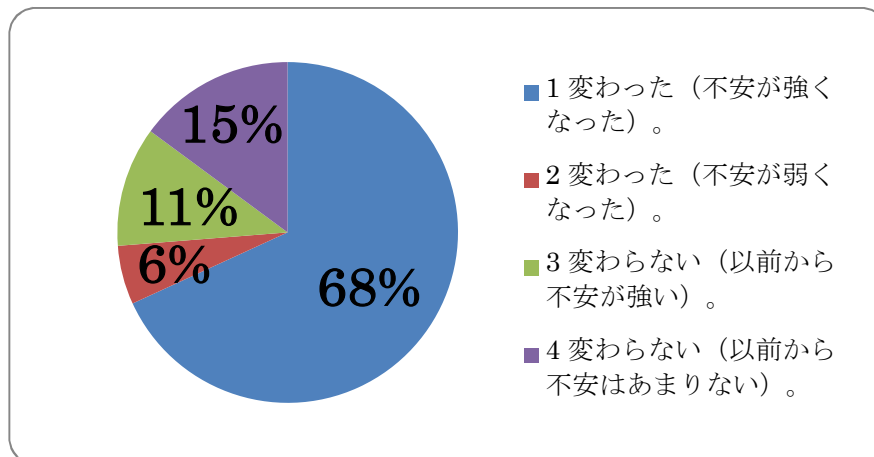


(3) 東日本大震災のように、大災害時にあなたの家庭が被災すると同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。

あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



(4) あなたは、東日本大震災が起きる前・後をくらべ、大地震や風水害に対する気持ちに変化がありましたか。



(5) 本日の講座についての感想や、東日本大震災後にあなたが感じたことを書いてください (主な回答)。

- ・自分の身は自分で守ることが大切だと思った。
- ・日頃から災害への備えが必要であることを改めて感じた。
- ・災害に備えられるよう非常品の準備をしようと思った。
- ・今日の話をつきかき、家族で話し合いを持ちたいと思う。
- ・講座を聞いて、早速、家族と連絡方法や集合場所を決めようと思った。
- ・地震で家具など倒れないよう、これから固定しようと思う。
- ・早めの行動と、落ち着いて行動することが大切であることを学んだ。
- ・災害が起きたら、どんな人でも協力し合わないといけないと思った。
- ・自分たちが災害時に人々を助ける力があることを知り、力になりたいと思った。
- ・お年寄りを助けられるよう行動したい。自分たちがやらなければいけないと気が付いた。
- ・高校生が被災地で活躍していたことを初めて知り、自分も被災したら、周りの人たちを助けなければと思った。
- ・ボランティアが必要になったら積極的に参加したい。
- ・実際に体験した方の話は実感がこもっており、怖さを感じられた。
- ・震災の時は、連絡が取れなくて家族が無事か、すごく心配だった。
- ・人は年月が経つと大事なことを忘れてしまう。もう一度よく考えたい。